

やなかわ

9月1日

今号の内容

◆景観計画と景観条例 10月1日施行	2~3
◆ファミサボが1歳の誕生日	4~5
◆床上浸水以上の世帯に見舞金ほか	6~7
◆大和南IC~徳益IC間が開通ほか	8
◆筑後七国スタンプラリー開催ほか	9
◆市民のひろば(10-11) ◆川柳(11) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(12-13) ◆情報わいど(14-20) ◆がんばったね、ぬくもり(20) ◆もちふみデビュー(21) ◆保健ガイド(22-23) ◆新市史抄片(24)	



県大会優勝目指し猛練習

9月9日に福津市で行われる第22回福岡県消防操法大会へ向け、市消防団の夜間練習が5月から連夜続けられています。出場する小型ポンプの部は、3本のホースをつなぎ、63メートル先に設けられた標的に放水し、当てるまでの時間と動作の正確さを競います。出場するのは、旧三橋町の各分団から選ばれた平野智典さん、高巢博敏さん、中村毅司さん、甲木巨さん、河口裕一さん(左写真前列左から)です。毎回練習に参加して5人を支えている久保洋さんは、中山地区を担当する第18分団の所属。「氷害で日ごろの訓練の大切さが分かったので、練習に力が入っています」と力強く話しました。



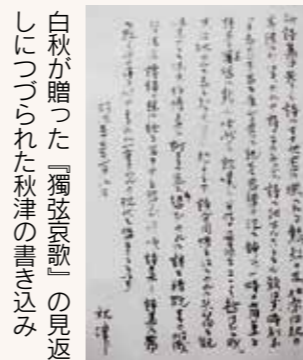
白秋と白仁秋津 『獨弦哀歌』 受贈をめぐって

1968(昭和43)年に、大牟田市の土蔵から発見された回覧同人誌『常盤木』は、柳川時代の白秋の文学活動を知る一級資料として話題になりました。そのリーダー的存在が三池郡上内村(現・大牟田市)在住の白仁秋津(本名・勝衛、1876~1948)でした。



白仁秋津(1901年4月撮影)

秋津は熊本(津々)に学び、与謝野鉄幹の指導を受けて回覧誌『つくし』(明治32年)を発行するなど、『明星』の直系歌人として活動した九州の先駆者でした。白秋より9歳年長の秋津は、士族の長男としての責任や、社会矛盾との戦いなどの重圧をいち早く感じており、『常盤木』には短歌だけでなく、そうした苦しみを文章にしています。ほかの同人たちの恋を夢見る美しい歌も、いずれは



白秋が贈った『獨弦哀歌』の見返しにつづられた秋津の書き込み

そうした苦しみ(煩悶)に見舞われる運命でした。立身出世を願う父母の期待と、息子たちとの価値観の食い違いは、藤村操が「人生不可解」と記して華嚴の滝に投身(明治36年5月22日)して以来、「煩悶青年」という流行語まで生み出します。白秋の親友、中島白雨(本名・鎮夫、1886~1904)が仙台を放浪し、「人生不如意(九州日報)」と書きつけたのは同年7月。白雨はその後、露探(ロシア)のスパイの噂を立てられて明治37年2月13日に自刃します。父との確執からノイローゼで落第した前歴を持つ白秋が、伝習館中学の卒業を待たずに柳川を出たのは同年3月でした。白秋の出郷は、文学を認めない父への宣戦布告でしたが、秋津にも

思いがけない波紋を与えていたのです。ひそかに秋津に別れを告げた白秋は、蒲原有明の詩集『獨弦哀歌』(明治36年5月)

を贈っていますが、その見返しには、「此詩集は若くして詩にすすみ、恋に熾へたる熱烈の友北原白秋の寄贈にかゝる」に始まる秋津の文字が書き込まれています。これだけでも新資料の価値がありますが、秋津の述懐は、『詩集に幣を散して何の得る所やある。われ一重にわれの現状を悲しまざるを得ず』と、詩を捨てざるを得ない現状の確認で結ばれています。秋津が日露戦争に従軍するのはその半年後。

1907(明治40)年に「五足の靴」旅行の白秋一行を出迎えた秋津は、その後『明星』に復帰しますが、銀水村(同40年、上内村と合併)の村長の職責を果たしつつ、与謝野夫妻を物心両面で支え続けました。秋津は時代の寵児白秋とは異なりますが、生活者としての自己修養を重視した文学の軌跡を描いていったのです。

残念ながら秋津書き込みの『獨弦哀歌』は、ご長男の故・白仁欣一氏から頂いたコピーが筆者のもとに残るのみで、現在は所在不明です。ただ白秋たち明治の煩悶青年が集った秋津の家は、現在も昔のままに残されています。

福岡国際大学教授 井上洋子

編集後記

●ちよっと前のこと。育てていたカブトムシが羽化した。売り物にしてもいいぐらいのサイズに大満足。カブトムシは幼虫の大きさと、成虫の大きさが決まる。昆虫でも人間でも幼少期の環境は大切だ。そんなことを考える横には、テレビに見入って夕食が進まないわが子の姿が...

●息子が水天宮祭の出店ですくってきた金魚が4匹いる。始めはかわいがっていた息子たちも、今では自分が世話係に。出勤前と帰宅してすぐにエサをあげようと水槽に近づくと、口を大きく開けてやってくる。それを見て少し癒されているわけて。だから長生きしてね、金魚たち。(賢治)

平成24年7月末現在

人のうごき

- 人口 71,302人 (前月比+168)
 - 男 33,783人 (+51)
 - 女 37,519人 (+117)
- 世帯数 24,878世帯 (+129)

※住民基本台帳法の改正により、7月から外国人住民も住民基本台帳に登録されるようになったため人口が増えています。